

## 学術研究懇談会(RU11)について

### 【経緯】

○ 「研究及びこれを通じた高度な人材の育成に重点を置き、世界で激しい学術の競争を続けている大学(Research University)による、学術の発展を目的とした、設置形態(国立・私立)を超えたコンソーシアム」として、平成21年11月、9大学(旧帝大+早慶)をメンバーとして発足。

平成22年8月より、筑波大、東工大を加え、“RU11”として、総長・塾長の下、研究担当理事が中心となり活動。

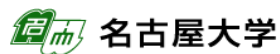
### 【活動状況】

○ 日本の学術の発展に向けた政策提言を積極的に実施。

- ・「大学の研究力と学術の未来を憂う(共同声明)」(平成21年11月29日)
- ・「大学の研究基盤の強化と未来を拓く若手研究者の育成のために(共同声明)」(平成21年12月15日)
- ・「国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を(緊急政策提言)」(平成22年3月19日)
- ・「総理大臣への緊急共同提言」(平成22年11月25日)

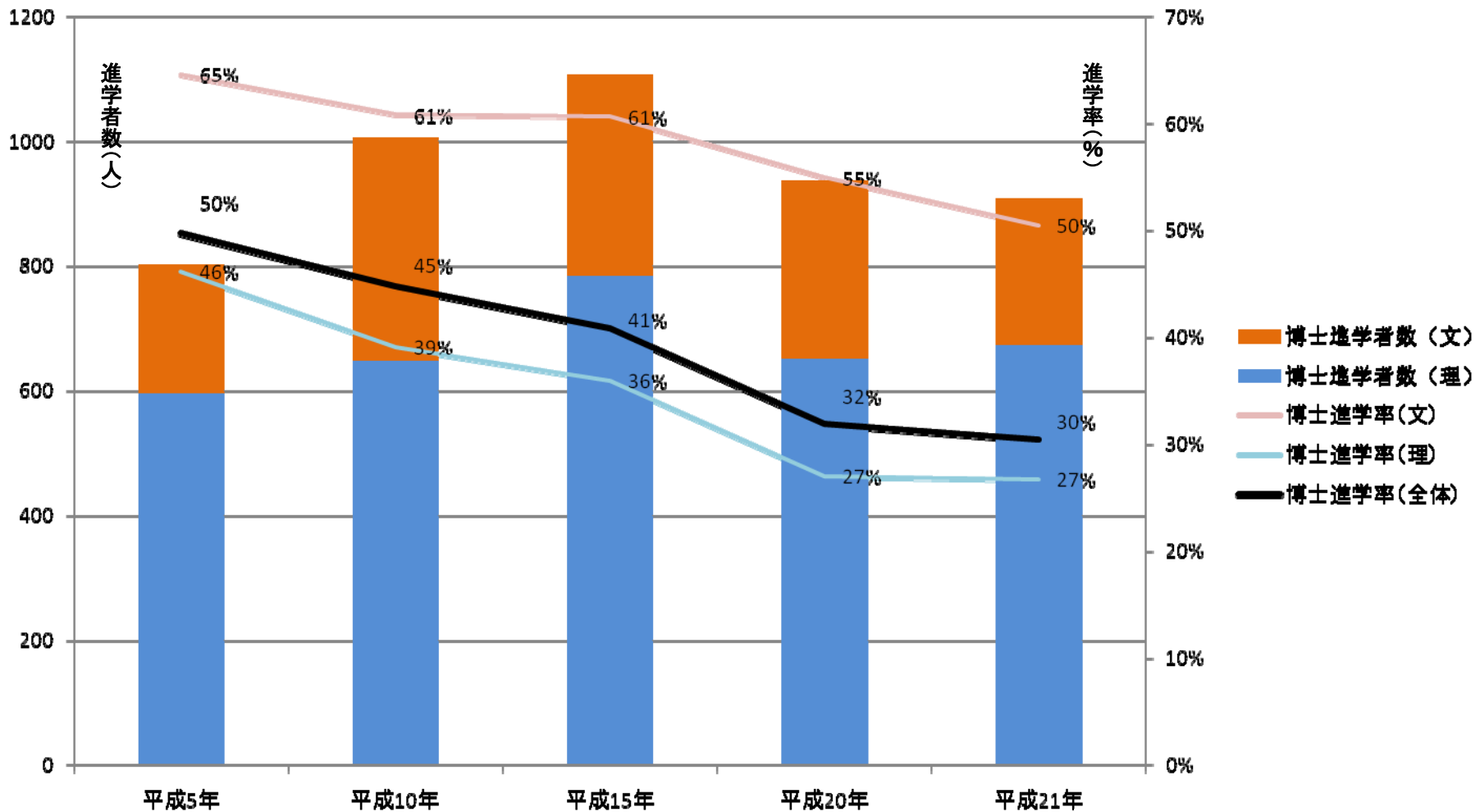
○ 総長・塾長の共同記者会見やシンポジウム、論説委員との懇談等を通じ、学術の重要性等について発信。

○ 現在、研究大学としてのグランドデザインや、高度な研究支援人材としてのリサーチ・アドミニストレーターのあり方等を検討中。



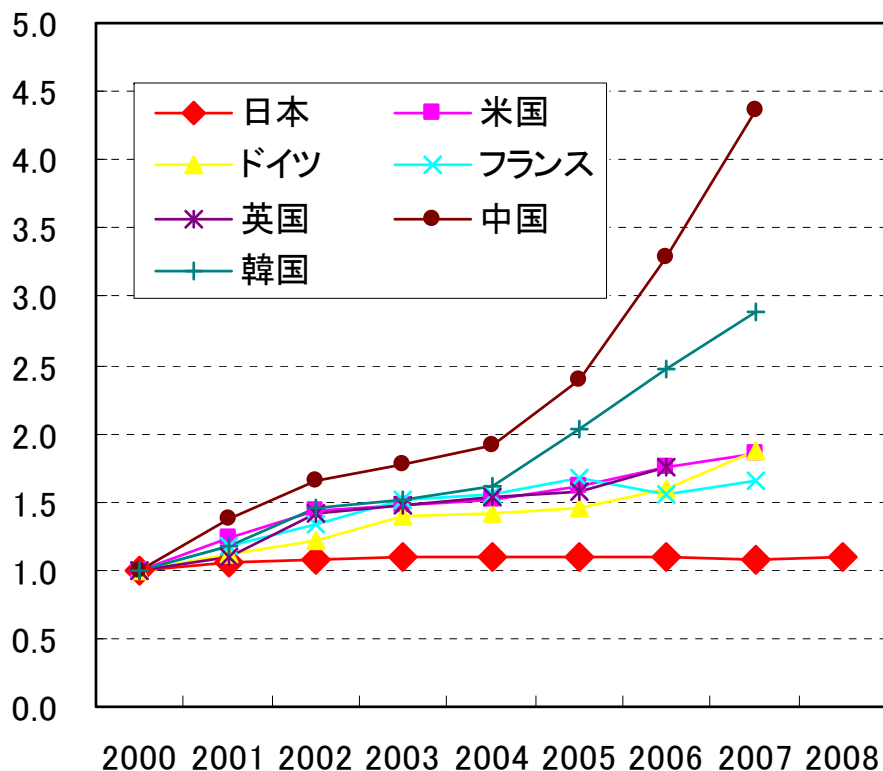
# 修士課程から博士課程への進学状況（ある大学の例）

博士課程への進学率は減少を続け、実数でも近年は減少傾向。

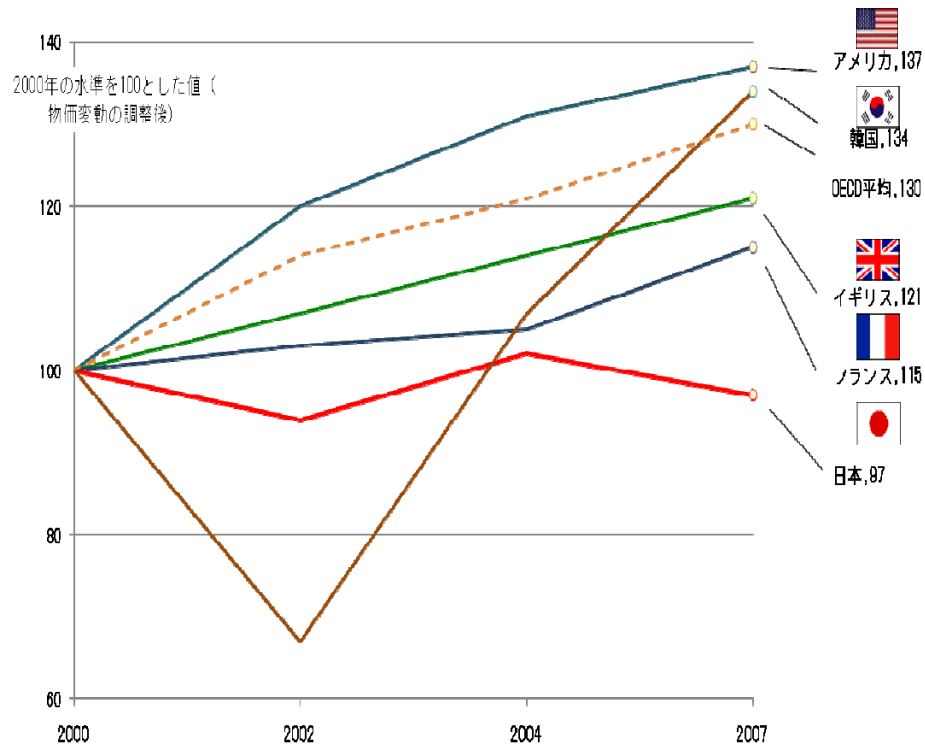


# 諸外国が科学技術・高等教育予算を伸ばす中、日本だけが停滞。

科学技術関係予算の推移  
(2000年度の予算額を1として比較)



高等教育機関への公財政教育支出の推移  
(2000年度の公財政支出を100として比較)



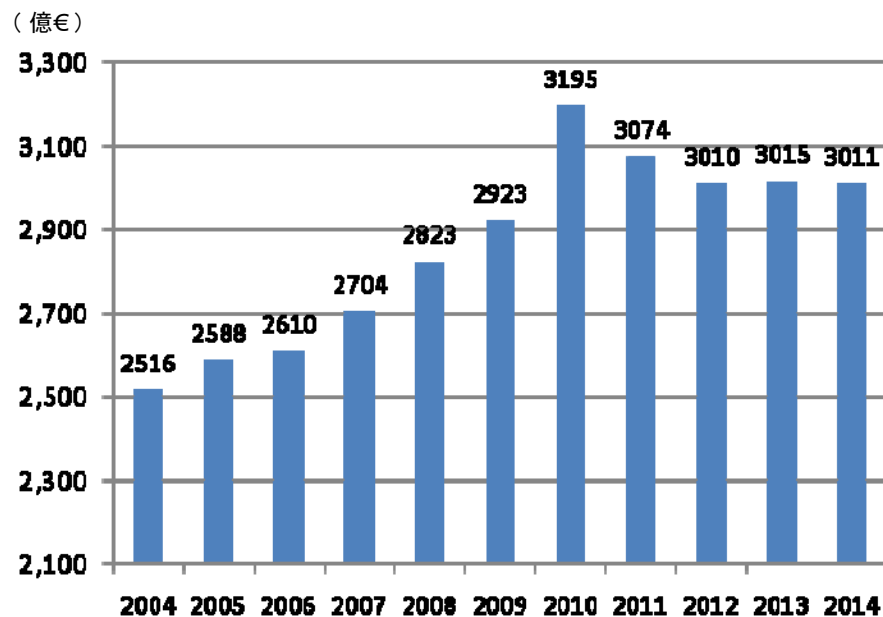
注) 各国の科学技術関係予算をIMFレートにより円換算した後、2000年度の値を1として各年の数値を算出。 資料: OECD、IMF

## ドイツでは、国家の全体予算を削減する一方、大学予算は例外として大幅に拡充。

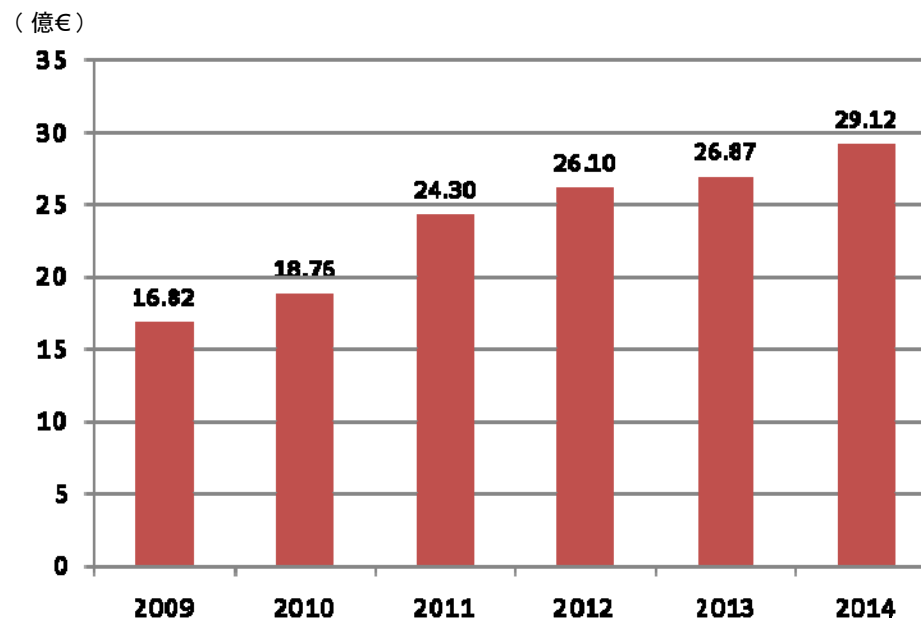
ドイツでは、2010年まで右肩上がりの予算編成を行ってきたが、財政再建のため、2011年以降の予算削減を打ち出した。

しかし、大学予算については、国の経済・社会の発展を支える重要なものと位置づけ、2011年以降、国の予算を大幅に拡充する予定。特に、2011年は、2010年の予算額から約3割増やす予定。

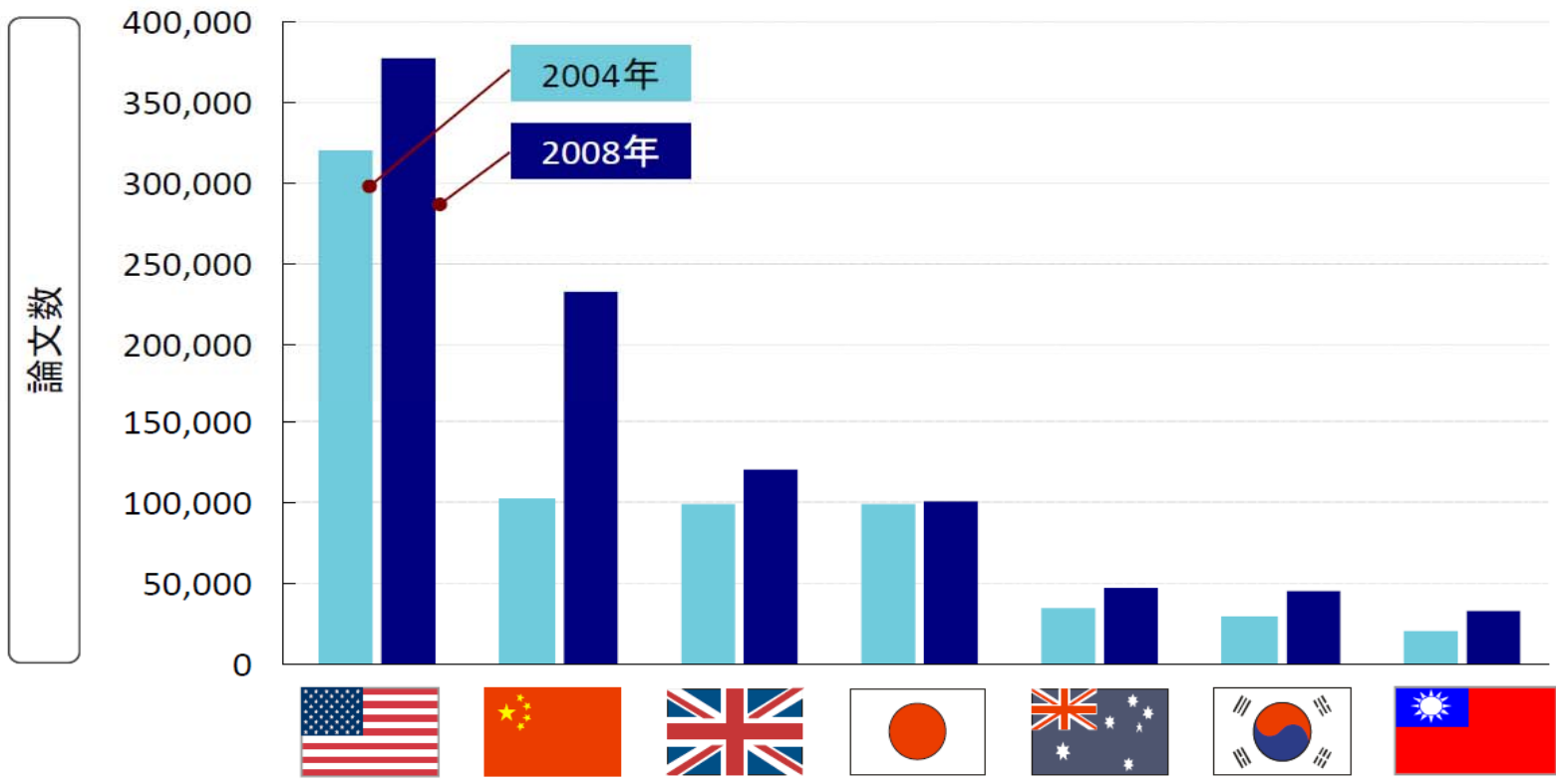
### ドイツにおける国家予算額の推移(2011年以降は予定)



### ドイツにおける国の大学予算額の推移(2011年以降は予定)



諸外国が論文数を大きく増やす中、日本は微増にとどまっている。  
各国の論文数の推移(2004年、2008年)



Source: SCIMAGO data (Using Scopus Data)